

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文の分量が 2 ページ分程度増加したうえに、観念的な表現や内容を含むため、やや手こずった受験生もいたかもしれない。 〈古文〉 御伽草子からの出題であり、比較的読みやすかったと思われる。設問は標準的なので、落ち着いて丁寧にとり組むようにしよう。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (随筆) 鳥越けい子 『触発するサウンド スケープ』(序文) ○行数 : 141 行☑	サウンドスケープによる、人と環境の生きた関係の構築について述べた文章。(一)の空欄補充問題は、一定程度手こずった受験生もいたと思われる。(二)~(四)の内容説明問題は標準。(五)の内容説明問題の選択肢 4 は「意識を『橋の音』と結びつけ」が不適當。(六)の内容合致問題の選択肢 6 は「まちの外から訪れた」が不適當。(七)の記述問題は、サウンドスケープの効能を踏まえて解答する。 ※ (昨年度) 評論、96 行、7 問 (7)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (室町・御伽草子) 作者未詳 『鼠の草子』 ○行数 : 22 行 ○和歌 1 首を含む	結婚相手の素性が鼠だと知った姫君が出家を考える話。異類婚姻譚のため、戸惑った受験生もいたかもしれない。(一)の語句問題は標準。(二)の内容説明問題は、権頭の発話文であることに留意する。(四)の現代語訳は、「給は」が尊敬の補助動詞である点に注意する。(六)の内容合致問題の選択肢 2 は「刀を持っていなかった」「前歯で鬼胡桃を割って」が不適當。 ※ (昨年度) 鎌倉・擬古物語、18 行、7 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。同志社大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	7問 (7)	6	1		4		2>1	1					
二	7問 (8)	7	1		1	1>1	1			2		3	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>例年、問題文の分量は多いので、時間内に正しく読解することを意識しよう。また、空欄補充問題も頻出なので、相応の語彙力もきたえておこう。</p> <p>〈古文〉</p> <p>さまざまな時代・ジャンルの文章にふれておくことが重要である。最終設問では、字数制限が厳しい記述問題が必ず出題されるので、端的にまとめる記述力もきたえておこう。</p>